

さんさん、きらきら 第27号

光り、輝く、チーム南陽小 ～考えよう、語り合おう～

令和5年2月10日
長崎市立南陽小学校
学校だより
校長 寺田 成広

3回目の避難訓練の実施

今年度最後の避難訓練を、1月31日(火)に実施しました。これまでの訓練をふまえて、子どもたちが考えて避難できるかを試すために、今回は「予告なし・中休み中に訓練開始」としました。1年前の同様の訓練では、中休みで教室を離れていた子どもが、一度教室に戻ってしまうことがあったようで、この点を特に事前指導しました。(避難の合言葉「おはしもち」の【も】もどらない)

今回は大きな混乱がなく、避難完了まで2分45秒と迅速に行動できました。課題は、放送時のざわつきや、担任が教室近くにいたことで、完全に子どもたちだけの避難とならなかったことです。次年度の訓練計画に改善策を盛り込みます。



外部講師を招いての学び

2月1日(水)3年生は、長崎市社会福祉協議会社会福祉士野瀬様を講師として、「高齢者疑似体験活動教室」を実施しました。福祉について学習している3年生は、先日のパラバドミントン教室に続いての体験活動でした。

重りをつけ、関節の動きが制限され、視界が狭まり視力が落ちた状態を時間をかけて体験しました。「動きにくい。」「カードを数えるのもうまくできない。」「本の字が見えない。」等々の声が上がっていました。

したくてもできないことの大変さやストレスを味わったようです。したいことをできている今の自分を「普通」と思わず、社会には様々な人々が暮らしにくさを感じながら生活していることを実感できたようです。今回の貴重な体験を、今後の学習と普段の生活にいかにつなげるかが次のポイントです。



<他の画像はこちら ⇒ [3年生 高齢者疑似体験 | 長崎市立南陽小学校 \(nagasaki-city.ed.jp\)](https://nagasaki-city.ed.jp)

臨時的任用教員の不足

最近報道で時々取り上げられる「教員の不足」は、本県、本市においては特に顕著に表れ危機的な状況です。理由は複数ありますが、大量採用時代に教員となった50代が退職を迎えていること、免許更新制によって免許状が失効して学校現場から離れた人が多くいたこと、教員採用が少なかった頃に教育学部の入学者定員が縮減したこと、教職を志望する子どもが減った上に教育学部に入学しても6割から7割ほどしか実際に教職につかないこと等です。

出産・育児にかかる休暇の代替者はぎりぎり確保できている(学校によってはしばらく代替者がこないこともあり)状況ですが、心身の不調によって長期に休暇を取る教員の代替はほぼ配置されません。そもそも人員に余裕がない学校では、1名不足するだけで様々な問題や負担が生まれ、子どもたちと向き合う時間が減り、指導が疎かになりかねません。

もし過去に学校に勤務したことがある方、または幼稚園や保育園に勤務して子どもたちに関わってきた方(小学校教諭免許がなくとも臨時免許状を取得できる場合あり)がおられたら、臨時的任用の登録を検討していただければと思います。ご自身ではなくとも、親戚・知人にいらっしゃる場合には、登録を呼びかけていただくと有難いです。

勤務条件等を詳しくご覧になりたい場合は、【長崎県 臨時的任用教員】で検索すると該当ページが閲覧できます。